

熊本大学広報誌

熊大通信

vol.

34

2009 AUTUMN

熊本大学設立 60 周年特集
嗚呼、我らが熊本大学よ。



国立大学法人
熊本大学

Kumamoto University





SCENERY OF CAMPUS キャンパスの風景

昭和28年春の黒髪キャンパス周辺

この年の6月におきた熊本大水害直前の風景。現在附属図書館がある付近にグラウンドがあり、白川には子飼橋も確認できる

熊大通信 vol. 34

2009 AUTUMN



熊本大学広報誌 熊大通信

*皆さまのご意見・ご感想をお寄せください。

【発行】 国立大学法人熊本大学
〒860-8555 熊本市黒髪 2-39-1
Tel.096-342-3119
Fax.096-342-3007
sos-koho@jimu.kumamoto-u.ac.jp

【編集】 熊大通信編集委員会
矢加部 和幸／委員長・政策創造研究教育センター
溝淵 園子／文学部
河野 順子／教育学部
田村 耕一／法学部
高宗 和史／大学院自然科学研究科
田中 智之／大学院自然科学研究科
太田 訓正／大学院医学薬学研究部
首藤 剛／大学院医学薬学研究部
西村 兆司／企画部広報戦略主幹

【制作】 株式会社カラーズプランニング

CONTENTS

- 03 熊本大学設立 60 周年特集 嗚呼、我らが熊本大学よ。
- 11 研究室探訪 60 年の歴史を編み未来につなぐ
60 年史編集室
- 13 特集 熊本大学の 60 年
- 17 国際交流 インタビュー
異国へ留学し、結婚、出産 いつか母国で教鞭を
大学院自然科学研究科 アセブ・サエプロさん バユ・アラムサリさん
- 19 卒業生ジャーナル
- 21 Information

熊本大学設立60周年特集

嗚呼、

我らが熊本大学よ。

今年、熊本大学は設立60周年を迎えました。
 60年間の時の流れと共に、
 本学もさまざまな軌跡をたどっています。
 そこで、各世代の卒業生3人の方に、
 学生時代の忘れ得ない一枚の写真を選んでいただき、
 その当時の思い出を語っていただきました。
 そして、熊大第一回生の今江正知さんに、
 数々の懐かしい写真の背後に広がる、
 熊大の60年間を振り返りお話しを聞きました。



◁昭和24年、開学記念式典の学長挨拶



◁昭和28年6月、熊本を未曾有の水害が襲った。
学生たちが救助・復旧活動に活躍



◁昭和30年代、学生服に身を包んで式典に臨む



◁昭和40年代、合格発表会場には公衆電話を特設



◁昭和45年、熊本大学にも学生運動の嵐が吹き荒れた



◁昭和35年、天皇、皇后両陛下の熊本大学行幸

◁昭和47年ごろの黒髪北キャンパス



◁合格者には「胴上げ」
「万歳三唱」を100円でサービス?するのは、先輩たちからの合格祝い

卒業生が語る熊大時代のメモリー

僕らは、国家試験をボーイコットしたんですよ。41年卒は、白衣デモを初めてやった学生です。一枚の写真を選ぶなら、この思い出はありません。

昭和35年、医学部進学課程に定員80人のところ、89人が入学しました。その9人には、僕が間違いなく入っていたでしょう。入学式の時に、キャンパスで角帽を売っていましたね。僕も買いました。

ちょうど「60年安保」の年です。同級生に誘われてデモに出たところ、講義より充実感がありました。虫垂炎から腹膜炎を起こし緊急手術を受けた時も、腹帯を巻いたままデモに繰り出しました。この時はさすがに、手術で命を助けていただいた稲田正雄先生にひどくしかられました。安保が成立する夜は、自民党県連前で夜遅くまで座り込み、今度は下宿のおばさんにご迷惑られました。

当時、学生はみんな貧乏でしたし、まだハンカチでした。煮染めたような黄ばんだシャツを着ていましたよ。二の丸公園に寮があり、そこが汚くて赤痢が流行ったりしました。酒を飲んで倒れるやつ、徹夜マージャンをするやつダンスにいく軟派、だいたいこの三派でした。僕はマージャンと酒でしたね。酒はよく飲みました。ハイボール、コークハイ、テネシーワルツが当時の人気トップ3でした。

4年の時が東京オリンピックです。僕の下宿に白黒テレビがあったので、みんな授業を

白衣のデモ行進 闘争に始まり闘争で終わる

小野 友道さん

熊本保健科学大学学長
医学部・昭和41年卒



さぼって集まっていた。教授がカンカンに怒つとるぞ」と呼びにきたやつを押さえ込んで、教室に戻れないようにしたものです。

白衣でデモをやったのは昭和41年の卒業前でした。なんとか医学部に進学し、やっと卒業という時、今度はインターン廃止闘争です。集会後、白衣を着てプラカードを持ち、熊本市内をまじめにデモ行進しました。当時の学生デモは警官とぶつかり合う過激なものが多かったのですが、この時は「整然」として行儀のいいデモ」と新聞にも書いてありました。

春の国家試験はほとんどの学生がボーイコットし、試験会場の国立病院にデモ行進して氣勢を上げました。女子学生も全員がボーイコットしました。毎日、病院内の掘っ立て小屋に集まり、「国を変えよう」と仲間と熱く意見を戦わせたものです。

秋の国家試験は受けることになり、全員が合格しました。みんなが医者になるという安堵感と、闘争に負けたという無力感が入り交じった思いがしました。このボーイコットが、よかったのかどうかは分かりませんが、後悔はしていません。その代わり、41年卒の卒業生は運命共同体、一連托生の意識があり、とても仲間が良いです。卒業後は「41会」をつくり、卒業記念アルバムや節目ごとに随筆集などを出しています。もちろんクラス会は、毎年欠かさず続けています。



【プロフィール】

おの・ともみち

昭和15年8月生まれ、69歳。昭和54年熊本大学医学部皮膚科助教授、平成3年同教授、同14年医学部長、同15年大学院医学薬学研究部長、同16年国立大学法人熊本大学理事・副学長、同18年11月熊本保健科学大学副学長、同19年4月同大学学長。熊本大学顧問・名誉教授。

学生時代といえば、ラグビーに明け暮れながらも仲間付き合いやバイト、恋愛と、忙しい毎日でしたね。当時はとにかく何にでも一生懸命。立てなくなるまでラグビーをやる！酒を飲む以上は吐くまで飲む！大学をさぼったり、喧嘩したり、時には先生とも衝突したりしていました。デキの悪い学生生だけと前向きで常に熱かった。あのころは、先生も自分たちも

「一生懸命生きていた。熱い時代でした。」

写真は昭和60年の「全国地区対抗大学ラグビーフットボール大会の九州地区決勝戦のひとコマ。闘魂」と描いた手作りの垂れ幕を手に、多くの仲間が熊本から応援に駆けつけてくれたんです。キャプテンだった私は、強豪福岡工業大学を相手に俺たちは勝てるのか？「皆コンディションは大丈夫か？」と百問百答する日々を乗り越えて、やっと迎えた当日。目標にしてきた試合に挑む緊張感というよりもメンバー全員を率いる責任が大きいのしかかっていましたね。結果は44対6、次に待ち構えていた全国大学選手権一回戦、関東地区代表校との試合の切符を、手に入れることはできませんでした。そりゃ、悔しかったですよ。私を信じて、一生懸命ついてきてくれた部員の涙を目の当たりにするんですから。

それでも全員が試合をやり切った満足感、けがもなく無事に終えることができた安心感が強かった。

隣に並んで写っているのは妻なんですよ。大



ラグビーも、酒も、恋愛も熱い！
仲間と出会い、伴侶を得た大学時代

伊藤 博さん

県立熊本工業高等学校ラグビー部監督
教育学部・昭和61年度卒

学時代に知り合い、付き合いあって結婚しました。私にとって熊大は、多くの仲間や先生、そして人生の良き理解者と出会い、指導者となった今の教育に対する考えの土台となった記念すべき場所。当時、ラグビー部の顧問であった池田先生や松元先生が「五輪の書」などの精神面を引き合いに出されるたびに、「ラグビーには関係なか！」と思っていました。勝つためには何が必要かと考えると、結局そこにいきつくんですよ。教員になってからは、自分の生徒たちに学ばせてもらうことも多く、ラグビーを通じて日々感動。幸せな職業だなと思います。

指導している熊本工業高校は、平成18年に荒尾高校を下して、12年ぶり27回目の全国高等学校ラグビー大会に出場し、部員と共に初めて花園ラグビー場の土を踏みました。名門、熊工も8年間、九州大会へも行けない時代があり、やっとつんだ。花園の切符。しかし、彼らに一番伝えたいのは勝ったからといって、人生の勝者ではない。負けたからといって、人生の敗者になったわけではないということ。人生は胸を張って堂々と歩いていくものであり、自らがみ取っていくことだと知ってほしいですね。

現在、妻と二人三脚で次世代のラグビーを育てるために、小中学生のラグビー教室を開き、子どもたちを鍛えています。一生懸命闘い、終わった後握手で相手をたたえる。ノースサイドの精神を伝え、ラグビーを通じた人づくり、に力を尽くしていきますよ。



【プロフィール】
いとうひろし

昭和37年4月、八代市生まれ、47歳。昭和57年4月熊本大学教育学部中学校教員養成課程に入学。保健体育専攻。同62年3月卒業、荒尾市立八幡小学校へ赴任。平成2年より県立氷川高校に異動、ラグビー部監督に着任。同12年、県立熊本工業高校に異動し、現在同校ラグビー部監督9年目。同20年より(財)「日本ラグビーフットボール協会」高校日本代表コーチを兼任。

卒業生が語る熊大時代のメモリー

大学で何をやったかと考えた時、印象が強いのは、4年生の時に農業をやっていたことです。今も就職事情は厳しいですが、私のときも最悪な氷河期でした。みんな就職がなかなか決まらなくて農業をやりました。意味不明ですよ。

写真は、鈴木桂樹先生の政治学部のゼミで、学内の榎会館で宴会をした時のものです。前列中央が鈴木先生、その左が私です。このゼミのメンバーやマスコミ、就職希望者が集まり、12〜13人の仲間と農業を始めました。

「就職が決まらないから、もう自分たちで食料を作るしかないね」と友達と雑談していたら、それが周囲に広まり、「畑が見つかったらしいよ」というのです。「あれ、冗談だったのに……」ですよ。相違ない気持ちで、矢部町(現山都町)出身の友達のおばあちゃんから畑を借りて、農業をすることになりました。

平成11年8月4日、矢部町の鮎の瀬大橋が開通した。橋の近くに、ある畑に初めて行きました。とにかく草ボーボーで、機械ではなく鎌で開墾をしました。ワンピースを着ていましたが予想以上にすこやかだったので、「もっ、いいやつ」という感じです。

畑は、おばあちゃんの所有地とばかり思っていました。本当は違ったらしいです。誰の畑か分かりません。耕作放棄地というものです。

おばあちゃんに畑仕事を教わりながら、畝

就職氷河期を農業で乗り切る 「めっちゃめっちゃ大根できたよね」

舩津 真弓さん

KAB熊本朝日放送・報道制作局アナウンサー
法学部・平成11年度卒



を作ってタネをまいて、とにかく大根がたくさんできました。地元の人たちとおしゃべりしたり、宴会をしたり、ただ農業するだけでなく、いろんな人たちと知り合いになり面白かったですよ。

「農園に行こう」と仲間と誘い合って矢部まで毎週通いました。就職が決まらなまま、みんな農業の話ばかりをしていました。二トになるかどうかというのです。11月の熊祭祭では、まるで田舎の暮らしを研究発表しているように見せかけて、畑で収穫した大根のおでんを売りました。その後も、ホウレン草を作ったりしながら卒業するまで農業をやりました。

その時の仲間は、卒業を遅らせたり、大学院に進んだりした人もいましたが、その後意外とみんな希望した就職先に進みました。私はいくと、卒業直前の1月になっても就職が決まらず、大学を卒業するかどうかを迷いながら、次の年の就職エントリーの準備を始めました。ちょうどそのころ、KABのアナウンサー募集をテレビで見、模擬試験のつもりで受けたら入社が決まりました。2月に試験を受けて決まったのは3月です。

何年か前に農園を見に行ったら、元の荒地に戻っていました。悲しかったですね。今も当時の農業友達とは、しょっちゅう会っています。「めっちゃめっちゃ大根できたよね……」会えばいつも農業の話で盛り上がっています。



【プロフィール】

ふなつ・まゆみ
昭和52年8月、八代市生まれ、32歳。平成8年4月熊本大学法学部法律学科(現法学科)に入学。同12年3月卒業、同年4月、KAB熊本朝日放送に入社。KABニューストレイン(月〜木)、ナレーション(きてみて・5ch)、アナステを担当。

五高から熊大に入りなおし

県立中学済々黌4年の時終戦でした。昭和22年、第五高等学校に入学したのですが、24年に学制改革があり、旧制高校はなくなるというのです。せっかく五高に入学したのに、「勝手に新制大学に行きなさい」と放り出されたのです。まったくひどい話です。そのため五高の1年生を修了して、24年に熊本大学理学部に入りなおしました。

発足時の熊本大学は法文学部、理学部、医学部、工学部、薬学部、教育学部の6学部でした。法文学部と理学部の前身は五高で、医学部は熊本医科大学、工学部は工業専門学校、薬学部は薬学専門学校、教育学部は師範学校と青年師範学校でした。五高の敷地は、正門から五高記念館の東を通る道を境に東が理学部西が武夫原を含めて法文学部に2分割されました。教育学部は京町、内坪井、出水に分散しており、工学部は工業専門学校があった現在地で、薬学部も現在の大江でした。医学部は空襲で焼けたので、熊本城の二の丸の旧兵地に緊急避難していました。

入学試験は6月に行われ、入学式は9月でした。男女共学になり、女子学生がたくさん入学しました。50人以上はい

我が熊大生よ、

「ばかになれ」

今江 正知さん

熊本大学第一回生



(プロフィール)

いまえ・せいち

昭和4年11月生まれ、80歳。昭和24年9月熊本大学理学部生物学科入学。同30年同理学部助手、同45年同教養部講師、同52年同助教、同60年同教授、平成7年3月定年退官。現在理学部の同窓会会長を務める。

卒業生が語る熊大時代のメモリー

でしょうね。でも、女人禁制とされていた五高でも、実は同級生に女子学生が4人いたのですよ。

みんなおなかをすかせていた

いざ大学がスタートしたといつても、ゼ口からの出発です。五高時代の何倍にも増えた生徒のために、一般教養課程の新しい授業科目と担当する先生を決め、教室を割り振って時間割を作った先生方のご苦労は大変だったと思います。

教養課程は法文学部の先生と理化学部の先生が担当されましたが、意地が悪いほど優しい先生がいました。先生たちに「ばかだ、ばかだ」といつも言われ続け、学生たちは、「先生がばかというなら自分はばかなだろう」とみたいな顔をしていましたね。

昭和25年までは五高も存続し、新入りの熊大生も、五高の寮に入りました。五高の時ほどではないですが停電が多く、食べ物もなく、みんなおなかをすかせていました。東光原（現在の図書館から裏の駐車場一帯）はカライモ畑になっていました。僕が卒業するころは、ずいぶん良くなり、蒸かしイモがいつでも買えるようになりました。

当時は、学校の周囲に松の木がいつぱ

いありました。五高の景色といえば松林だったのです。戦後にマツクイムシの被害で松が次々に枯れて景色が変わってしまいました。26年に東光原に新校舎が建てられ、教養の講義はここで集中して行われるようになりました。

昭和28年6月28日の熊本大水害では、熊大も大きな被害を受け、熊大生が何人か亡くなりました。寮生たちが流されている人を助けたという美談もありました。僕は大水害が起きる前、大学を卒業して人吉高校に行ったので、遠く離れたところから心配しているだけでした。

大学紛争で教員も考えた

熊大に戻った後の昭和30年代は、どんな建物が増えて整備され、だんだん大学らしくなってきました。教育学部も黒髪キャンパスに移り、学生寮が移転した跡に法文学部と教育学部の研究室や講義室ができました。教養課程が独立して教養部になったのが39年で、平成9年まで存続しました。

学生運動が一番盛り上がったのは43年、44年でした。生協の定食値上げ問題が発端で、これがどんどんエスカレート



して大学紛争になりました。

偉い先生方は大変だったでしょうが、僕は下っ端教員だったので、学内の動きを興味半分で見ているだけでした。紛争を取材

している新聞記者から「先生、野次馬ですね」と言われ、「新聞記者に野次馬と言われたくないね」と言い返したぐらいです。

学生たちがワァーワァーやっている時、われわれ教員も会議、会議で毎日議論していました。あの時ほど、熊大の先生たちが大学、教育をして学生のことを真剣に考えた時はないと思います。

一見無駄なことが大事

大学紛争が終わって、大学は平静を取り戻しましたが、紛争の余波で学生自治会がなくなったりして、学生も変わりました。例えば、クラスの世話役を買って出る学生を、「あいつがやりたいなら、やらせてやる。でも僕は協力しない」と

いうような考えの学生が増えてきました。

世話役は大変で損をすることも多いけど、進んでやることの意義を考えない人間が多くなりました。僕らのころは、世話役は少し尊敬されていました。いまは軽く見られるようです。

先生もお節介をしなくなりました。僕は嫌われてもお節介をする、それが教育だと思のですが、研究のほうが先ですよですね。

僕たちは先生や先輩たちに「ばかになれ」と言われてきました。ばかになってみんなの荷物を持ったり、何かに打ち込んだりすることの大切さを教えられました。目先合理主義で「ばかなことではないで、お利口なことだけをやりたい」という学生ばかりになってしまっただけ寂しいですね。

すぐには役に立たないけれども、無駄なことも含めて学生時代にしっかり考える、そういう経験を具体的に積んでほしいと思います。「一見無駄に見えることを大事にする」という精神は、五高から続く熊大の伝統でもあります。その精神をしっかりと受け継いでほしいですね。

昔懐かし、学生街をゆめく

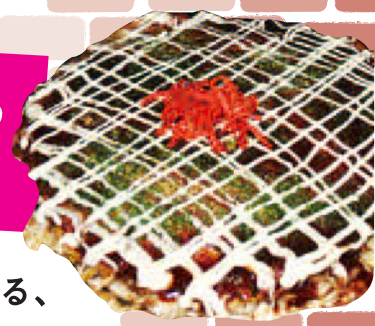
— 嗚呼、思い出の熊大黒髪キャンパス界限 —

いつも通ったあの店と、懐かしいおばちゃん笑顔。卒業しても忘れない街の匂い。ぶらりと黒髪キャンパス界限をゆけば、いつでもあの日にタイムトリップできる。今も昔も変わらない。お馴染みの顔を訪ねました。



子飼橋店が閉店しても、お馴染みの味は変わらない

親からお小遣いをもらって少し贅沢する時の学生さんのうれしそうな顔が忘れられんよ。



講義の合間に走って食べに来る、お楽しみのお好み焼き

万ごろう

熊本市西子飼町8-29 TEL.096-345-4902



満席のときには、河原でお腹を鳴らしながら待ってでも「モダン焼き」をわざわざ食べに来る学生も珍しくなってきたとか

子飼商店街に本店を出したのは、今から30年ほど前になりますが、今年3月に子飼橋の架け替え工事に伴い、子飼橋店を閉店しました。熊大の学生さんたちは講義の合間に来ている人が多く、皆子飼橋店に息を切らして走ってきたり、自転車で駆け込んできたものです。お好み焼きを食べ終わると、友だちの分を注文しておいたり、席取りをしたり、入れ替わり立ち替わり来てくれましたね。昔は交差点を挟んで向かい側にパチンコ屋さんがあり、案外そこに通っている子も多かった。学校では教えてもらわない社会勉強をした後に、お店に来てくれたんでしょね。学生さんには、ポリウームのある「モダン焼き」の大盛りが人気でしたけど、GWやお正月の後は、親からお小遣いを貰ってくるのか、いつもより高いメニューを食べる。うれしそうな顔が今も目に浮かびますよ。



閉店直前には若い教官や学生たちが掃除
早く終わって麻雀なんて、バレンタインな時代だった。

教官から学生へ、先輩から後輩へ
受け継ぐ心の拠りどころ

トトロ亭

熊本市東子飼町3-4 TEL.096-343-0128



1992年から10年ほど、熊大のそばで洋食店を営業していました。店は教官の方々の溜まり場になっていて、アルバイトは、サークルの先輩、後輩の繋がりで引き継いでいたので、募集したことはありませんでした。食後のコーヒーが100円だったころ、食事を家で済ませて食後のコーヒーだけ飲みに行く学生もいて、面白かったですよ。

当時はゼミ生の卒業祝いをしてあげる先生も多く、教官と学生の関係が、今よりはだいぶ密だった気がします。商店街に移ってからパン屋を開いたんですけど、今でも洋食屋で食べたパンを懐かしんで、買いに行く当時のからのお客さんも多いですね。



当時の洋食メニューを、今も食べたいというリクエストが多いという。今は子飼商店街の名物ベーカリーだ



運動会の時期には全ての演団に差し入れをした。女将さんはまさに“子飼の母”なのだ

KUMADAI

熊大生との生活が、
私の人生の中での基本。
共に歩くという感じね。



おばちゃん“鶏の空揚げ”を食べて、
カラオケ・雀荘へGO
味楽亭 はやしだ

熊本市黒髪2-33-2 TEL.096-345-9627

お客さんは熊大生ばかり、土木の重石光弘先生、電気では末吉哲郎先生、それと伊賀崎伴彦先生たちは、学生時代からの常連さん。この30年で一番古株の店になりました。2階はカラオケと雀荘だけど、これも昔から熊大生のための場所。

改装する前には、熊大生が暴れた跡がいっぱいでしたよ。運動会で勝っても負けても打ち上げをして、どこが良かった悪かったと話し合いをして喧嘩する。そして他の各部と合流して、また喧嘩。私が怒って出て行くとおしまい、そんな熱気盛んな時代でした。

研究室探訪

Laboratory Exploration



60年史編纂室

60年史編纂室は、平成20年4月に設置されました。黒髪南キャンパスにある2階建ての赤煉瓦の建物(旧政策創造研究センター)にあり、1階が資料室、2階が編纂室になっています。室長の安田宗生教授と、副室長の三澤純准教授を中心に、上野平真希学術研究員(編纂担当)をはじめとする常駐スタッフ4名、学生スタッフ4名の総勢10名が、平成23年10月の発刊を目指し編集作業を進めています。「部局史編」「通史編」「写真集(資料編)」の3部構成で、「部局史編」だけでも1,000ページを超える大作になる計画です。

現在、資料や写真を収集・整理し、データ化を進めながら、本学の詳細な年表づくりに取り組んでいます。大学発足直後の昭和25年に発行がスタートした「熊本大学学報」をはじめ、現在までに発行されたほとんどの大学報が収集され、書架を埋めています。編集スタッフは大学報に加え、新聞資料などから本学関係のみならず、全国的な大学の動きが書かれている記事をピックアップしています。

資料収集では、関係機関に資料や写真の提供を依頼するとともに、各学部の資料保管倉庫を回り、廃棄予定のものや保存状態の悪いものを持ち帰り、整理・保存に努めています。「附属学校を含め、全学部にある約25の倉庫を調査しました。倉庫には貴重な資料類がいろいろ眠っていました。将来の歴史資料館(アーカイブス)で活用できるよう、整理・保存を考えています」と上野平研究員は話します。

安田室長は「国立大学法人化後に大学史を発刊するのは、熊本大学が全国初でしょう。それだけに、法人化をどう評価するかがポイントの一つになります。大学史編纂事業は最大の自己評価ですし、熊本大学とは何か?を確認する重要な作業です。将来の目指す姿を書いていくことも大事だと考えています。『写真集』は、学生や一般人に気軽に見ていただけるものになるといいと思っています」と抱負を述べています。

熊本大学は戦後の学制改革により、昭和24年5月に、新制の総合大学としてスタートしました。

今年5月には創立60周年を迎え、これを機に、これまでの歩みと到達点を記録し、創造的発展の助けとなる大学史編纂が進んでいます。

そこで今回は、大学史編纂事業を“コア”となり推進している、60年史編纂室を訪ねました。



◀ 倉庫調査で持ち帰った資料を整理する上野平研究員



↑ 収集した資料をデータ化している学生スタッフ

◀ 大学史執筆に欠かせない、詳細な年表づくりが進んでいます

↓ 各学部の倉庫から出てきた戦前の学校印





60年の歴史を編み 未来につなぐ

安田宗生室長(後方左から2番目)、
三澤純副室長(後方右から2番目)
を中心とする、総勢10名の60年史
編集室





特集
FEATURE

学生数

昭和24年 1,154名
昭和44年 6,199名
平成元年 9,111名

学部7,731名/大学院820名/
専攻科・別科58名/医療技術短大502名

平成20年 **10,510**名

学部8,032名/大学院2,190名/研究生など298名

(昭和24年は開校時の入学者数、4月1日付データ。)

昭和44年・平成元年・平成20年は概要より、5月1日付データ。)

熊本大学の60年

熊本大学は昭和24年の学制改革により、
当時の熊本における高等教育機関(第五高等学校・熊本医科大学・
熊本工業専門学校・熊本師範学校・熊本青年師範学校・熊本薬学専門学校)を母体とし、
新制大学として発足しました。平成21年で満60年を迎えるにあたり、
これまでの歩みと各時代の数字にまつわる情報をまとめました。

昭和46年4月	昭和44年4月	昭和42年6月	昭和42年4月	昭和41年4月	昭和41年3月	昭和40年3月	昭和40年4月	昭和39年4月	昭和39年3月	昭和38年4月	昭和36年7月	昭和35年6月	昭和35年3月	昭和34年4月	昭和33年4月	昭和30年7月	昭和30年4月	昭和29年4月	昭和27年4月	昭和26年4月	昭和24年5月			
工学部附属衝撃エネルギー実験所設置	工学部附属電子工学専攻設置	教育学部附属養護学校高等部設置	教育学部附属養護学校設置	教育学部特別教科(看護)教員養成課程設置/理学研究科修士課程(数学専攻・物理学専攻・化学専攻・地学専攻・生物学専攻)設置/医学部附属中毒研究施設設置/工学部附属工学研究機器センター設置/看護教諭養成所設置	理学専攻科廃止	教育学部特別教科(看護)教員養成課程設置/理学研究科修士課程(数学専攻・物理学専攻・化学専攻・地学専攻・生物学専攻)設置/医学部附属中毒研究施設設置/工学部附属工学研究機器センター設置/看護教諭養成所設置	医学部附属衛生検査技術師学校設置/薬学研究科修士課程(薬剤学専攻・製薬学専攻)設置/教養部設置	工学専攻科廃止	教育学部附属養護学校設置/医学部附属診療工学的線技師学校設置/工学部鉱山工学科を資源開発工学科に改組、工学部合成化学科設置/工学研究科修士課程(土木工学専攻・建築学専攻・資源開発工学専攻・金属工学専攻・機械工学専攻・生産機械工学専攻・電気工学専攻・工業化学専攻)設置	工学専攻科廃止	教育学部附属養護学校設置/工学部電子工学科設置/教育専攻科設置	工学部生産機械工学科設置	教育学部養護学校教員養成課程設置/工学部電子工学科設置/教育専攻科廃止	工学部土木工学科、建築学科設置(土木建築工学科を分離)	法文学専攻科設置	工学部鉱山工学科、金属工学科設置(採鉱冶金工学科を分離)	教育学部各養成課程の2年課程廃止	附風図書館教育学部分館を本館に統合、工学部分館を工学部分室と改称	工学部生産機械工学科設置	教育学部養護学校教員養成課程設置/医学部附属看護学校設置	医学部附属看護学校助産婦養成科設置	理学部附属臨海実験所設置/医学部附属看護学校助産婦養成科を廃止し、附属助産婦学校設置/薬学専攻科、工学専攻科設置	医学部附属看護学校設置	法文学部(法学科、哲学科、史学科、文学科)/教育学部(小学校教員養成課程、中学校教員養成課程)(附属小学校、附属中学校、附属幼稚園)/理学部(数学科、物理学科、化学科、地学科、生物学科)/医学部(医学科)(附属病院、附属厚生女学部)薬学部(薬劑学科、製薬学科)/工学部(土木建築工学科、採鉱冶金工学科、機械工学科、電気工学科、工業化学科)体質医学研究所、附属図書館(本館、教育学部分館、医学部分館、薬学部分館、工学部分館)



うどん 1杯の料金 (平均)

外国人 留学生数



教職員数



昭和47年3月	法文学専攻科廃止
昭和47年4月	文学研究科修士課程(哲学専攻・史学専攻・国文学専攻・独文学専攻)設置/法学研究科修士課程(法律学専攻)設置/医学部附属衛生検査技師学校を附属臨床検査技師学校に改称
昭和48年4月	文学研究科英文学専攻設置/特殊教育特別専攻科設置/医学部附属免疫医学研究施設設置/保健管理センター設置
昭和49年4月	薬学部附属薬用植物園設置/工学部環境建設工学科設置
昭和50年4月	看護教諭特別科設置
昭和51年10月	医療技術短期大学部(看護学科、衛生技術学科)設置
昭和52年4月	教育学部看護教諭養成課程設置
昭和53年4月	工学研究科環境建設工学科設置/医療技術短期大学部診療放射線技術学科設置
昭和54年3月	医学部附属看護学校(附属臨床検査技師学校廃止)看護教諭養成所廃止
昭和54年4月	法文学部を改組し、文学部(哲学科、地域科学科、史学科、文学科)及び法学部(法律学科)設置 /教育学部附属教育工学科センター設置/医学部附属動物実験施設設置/工学部情報工学科設置
昭和55年3月	医学部附属助産婦学校(附属診療放射線技師学校廃止)
昭和55年4月	医療技術短期大学部専攻科助産学特別専攻科設置
昭和57年4月	医学部附属中毒研究施設及び附属免疫医学研究施設を廃止し、附属免疫医学研究施設設置
昭和58年4月	文学研究科地域科学専攻設置/工学研究科情報工学科専攻設置
昭和59年4月	医学部附属遠伝医学研究施設設置/体質医学研究所廃止
昭和60年4月	薬学部薬劑学科及び製薬学科を改組し、薬科学科設置/薬学研究科医療薬科学専攻(博士課程)設置(薬劑学専攻・製薬学専攻を改組)
昭和61年3月	法文学部廃止/教育専攻科廃止
昭和61年4月	教育学研究科修士課程(学校教育専攻・障害児教育専攻・教科教育専攻)設置/工学部電気工学科・電子工学科及び情報工学科を電気情報工学科に、工業化学科及び合成化学科を応用化学科に改組/工学研究科生産科学専攻(博士課程)設置
昭和62年4月	理学研究科環境科学専攻(博士課程)設置/工学部資源開発工学科・金属工学科を材料開発工学科に、機械工学科・生産機械工学科を機械工学科に改組
昭和62年5月	地域共同研究センター設置
昭和63年4月	教育学部附属教育工学科センターを附属教育実践研究指導センターに改組/工学部土木工学科・建築学科及び環境建設工学科を改組し、土木環境工学科・建築学科設置/自然科学研究科博士課程(生産科学専攻・システム科学専攻・環境科学専攻)設置(理学研究科環境科学専攻(博士課程)及び工学研究科生産科学専攻(博士課程)を振替)



近隣 下宿料金 (平均)

昭和24年 不明
昭和44年 16,000円
平成元年 55,000円

平成20年 **70,000円**

平成20年5月1日現在(6畳1間・3食付)

昭和24年 20円
昭和44年 100円
平成元年 300円

平成20年 **400円**

平成20年5月1日現在

コーヒー 1杯料金 (平均)

昭和24年 10円
昭和44年 85円
平成元年 300円

平成20年 **400円**

平成20年5月1日現在

近隣銭湯 大人入浴料金 (平均)

平成2年 4月
平成4年 4月
平成5年 4月
平成6年 4月
平成7年 4月
平成8年 4月
平成9年 3月
平成9年 4月
平成10年 3月
平成10年 4月
平成11年 4月
平成12年 4月

工学研究科電気工学専攻、電子工学専攻及び情報工学専攻を電気情報工学専攻に、工業化学専攻及び合成化学専攻を応用化学専攻に改組／理学部生物学科を生物科学科に改組
総合情報処理センター設置
工学研究科資源開発工学専攻及び金属工学専攻を材料開発工学専攻に、機械工学専攻及び生産機械工学専攻を機械工学専攻に改組／機器分析センター設置
医学部附属疫医学研究施設及び附属遠伝医学研究施設を廃止し、附属遠伝疫医学研究施設設置／医学研究科脳・免疫統合科学系専攻(博士課程)設置／工学研究科土木工学専攻、建築学専攻及び環境建設工学専攻を土木環境工学専攻及び建築学専攻に改組
理学部地学科を地球科学科に改組
医学進学課程廃止／理学研究科生物学専攻を生物化学専攻に改組
遺伝子実験施設設置／アイソトープ総合センター設置
留学生センター設置
工学部土木環境工学科、建築工学科、材料開発工学科、機械工学科、電気情報工学科及び応用化学科を環境システム工学科、知能生産システム工学科、電気システム工学科、数理情報システム工学科及び物質生命化学科に改組
教養部廃止
文学部哲学科及び史学科を人間科学科及び歴史学科に改組／教育学部生涯スポーツ福祉課程設置／法学部法律学科を法学科及び公共政策学科に改組／理学部数学科、物理学科、化学科、地球科学科及び生物科学科を数理科学科、物理科学科、物質化学科、地球科学科、生物科学科及び環境理学科に改組／理学研究科地球科学専攻を地球科学専攻に改組／エクス研究センター設置／大学教育研究センター(学内措置)設置
理学研究科修士課程を廃止／工学研究科修士課程を廃止／附属図書館工学部分室を廃止
薬学研究科博士課程に臨床薬学専攻を設置、医療薬科学専攻を薬科学専攻に改組／自然科学研究科に博士前期課程として物質科学専攻、材料システム専攻、機械システム専攻、数理科学・情報システム専攻、電気システム専攻、自然システム専攻、環境土木工学専攻、建築学専攻を設置し、博士後期課程として物質・生命科学専攻を設置／医学部附属遠伝疫医学研究施設トランスジェネティック実験室及び医学部附属動物実験施設を廃止し、動物資源開発研究センター設置
自然科学研究科博士後期課程生産科学専攻及びシステム科学専攻を生産システム科学専攻及びシステム情報科学専攻に改組／工学部附属衝撃エネルギー実験所及び理学部極低温装置室を整備統合し、衝撃・極環境研究センターを設置／環境保全センター(学内措置)設置
教育学部地域共生社会課程設置／医学部附属遠伝疫医学研究施設を廃止し、疫医学研究センター設置／教育学研究

国立大学 授業料

昭和24年 1,200円
昭和44年 12,000円
平成元年 389,600円

平成20年 **535,800円**

平成20年5月1日現在

郵便料金 (定型封書)

昭和24年 8円
昭和44年 15円
平成元年 62円

平成20年 **80円**

平成20年5月1日現在

平成13年4月

平成14年4月

平成15年10月
平成15年4月

平成16年4月

平成15年10月

平成17年4月

平成18年4月

科養護教育専攻設置／自然科学研究科博士後期課程環境科学専攻を環境共生科学専攻に改組
文学研究科哲学専攻、地域科学専攻、史学専攻、国文学専攻、英文学専攻及び独文学専攻を人間科学専攻、地域科学専攻、歴史学専攻及び言語文学専攻に改組／法学研究科法律学専攻を法学専攻及び公共政策専攻に改組／薬学研究科分子機能薬学専攻(博士課程前期)設置／生涯学習教育研究センター設置／沿岸域環境科学教育研究センター設置(理学部附属臨海実験所の転換)／教育学部附属教育実践指導センターを附属教育実践総合センターに改組／環境保全センター(学内措置)を環境安全センター(学内措置)に改称／サテライト・ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー設置／情報プラザ設置

医学研究科修士課程(医科学専攻)設置／社会文化科学研究科博士課程(化学専攻、公共社会政策学専攻)設置／総合情報処理センターを総合情報基盤センターに改組
インキュベーション施設設置
医学薬学研究部設置／医学研究科修士課程、博士課程を廃止し、医学教育部修士課程(医科学専攻)、医学教育部博士課程(生体医科学専攻、病態制御専攻、臨床医科学専攻、環境社会医学専攻)設置／薬学研究科修士課程を廃止し、薬学教育部博士課程(分子機能薬学専攻、生命薬学専攻)設置／薬学部附属薬用植物園を廃止し、薬学教育部附属薬用植物園設置／機器分析センター、遺伝子実験施設、アイソトープ総合センター、動物資源開発研究センターを廃止し、生命資源研究・支援センター設置／大学教育機能開発総合研究センター設置／大学教育研究センター(学内措置)を廃止し、教養教育実施機構(学内措置)設置

教育学部特別教科(看護)教員養成課程、医療技術短期大学部を改組し、医学部保健学科設置
学部法学科及び公共政策学科を法学科に改組／理学部数理科、物理科学科、物質化学科、地球科学科、生物科学科、環境理学科を理学科に改組／法学研究科法学専攻及び公共政策専攻を法学公共政策学専攻に改組／法曹養成研究科設置／サテライト・ベンチャー・ビジネス・ラボラトリーをベンチャー・ビジネス・ラボラトリーに改称／保健管理センターを保健センターに改称
政策創造研究センター設置／文学部人間科学科、地域科学科、歴史学科、文学科を総合人間科学科、歴史学科、文学科、コミュニケーション情報学科に改組／工学部附属ものづくり創造融合工学教育センター設置
工学部環境システム工学科、知能生産システム工学科、電気システム工学科、数理情報システム工学科、物質生命化学科を社会環境工学科、建築学科、マテリアル工学科、機械システム工学科、情報電気電子工学科、数理工学科、物質生命化学科

設置者が国から国立大学法人へ変更
学部法学科及び公共政策学科を法学科に改組／理学部数理科、物理科学科、物質化学科、地球科学科、生物科学科、環境理学科を理学科に改組／法学研究科法学専攻及び公共政策専攻を法学公共政策学専攻に改組／法曹養成研究科設置／サテライト・ベンチャー・ビジネス・ラボラトリーをベンチャー・ビジネス・ラボラトリーに改称／保健管理センターを保健センターに改称
政策創造研究センター設置／文学部人間科学科、地域科学科、歴史学科、文学科を総合人間科学科、歴史学科、文学科、コミュニケーション情報学科に改組／工学部附属ものづくり創造融合工学教育センター設置
工学部環境システム工学科、知能生産システム工学科、電気システム工学科、数理情報システム工学科、物質生命化学科を社会環境工学科、建築学科、マテリアル工学科、機械システム工学科、情報電気電子工学科、数理工学科、物質生命化学科

に改組／薬学部薬科学科を薬学科、創薬・生命薬科学科に改組／大学院自然科学研究科物質科学専攻、材料システム専攻、機械システム専攻、数理科学、情報システム専攻、電気システム専攻、自然システム専攻、環境土木工学専攻、建築学専攻、生産システム科学専攻、システム情報科学専攻、環境共生科学専攻、物質・生命科学専攻を理学専攻、複合新領域科学専攻、物質生命化学専攻、マテリアル工学専攻、機械システム工学専攻、情報電気電子工学専攻、社会環境工学専攻、建築学専攻、産業創造工学専攻、環境共生工学専攻に改組／薬学部附属創薬研究センター設置／大学院社会文化科学研究科修士課程教授システム学専攻設置／環境安全センターを学内共同教育施設として改組

法曹養成研究科附属臨床法教育研究センター設置
五高記念館設置
医療技術短期大学部廃止
大学院先端機構設置／生涯学習教育研究センター、政策創造研究センターを廃止し、政策創造研究センター設置／オンラインング推進機構設置／教育学部附属養護学校を教育学部附属特別支援学校に改称／自然科学研究科附属総合科学技術共同教育センター設置
バイオエレクトロニクス研究センター設置
地域共同研究センター、知的財産創生推進本部、インキュベーション施設ベンチャー・ビジネス・ラボラトリーを発展的に再編し、インキュベーション推進機構設置／文学研究科(修士課程)人間科学専攻、地域科学専攻、歴史学専攻、言語文学専攻、法学研究科(修士課程)法学公共政策学専攻及び社会文化科学研究科(修士課程)教授システム学専攻を社会文化科学研究科(博士前期課程)公共政策学専攻、法学専攻、現代社会人間学専攻、文化学専攻、教授システム学専攻に改組／社会文化科学研究科(博士課程)文化学専攻、公共社会政策学専攻を社会文化科学研究科(博士後期課程)人間・社会科学専攻、文化学専攻、教授システム学専攻に改組／医学教育部(博士課程)生体医科学専攻、病態制御学専攻、臨床医科学専攻、環境社会医学専攻を医学専攻に改組／保健学教育部(修士課程)保健学専攻設置／薬学部附属音楽フロンティアセンター設置／教育学研究科(修士課程)障害児教育専攻を教育学研究科(修士課程)特別支援教育専攻に改称／特殊教育特別専攻科を特別支援教育特別専攻科に改称

平成18年9月
平成18年12月
平成19年3月
平成19年4月
平成19年10月
平成20年4月

平成21年4月

平成21年1月

国際化推進機構を設置し、留学生センターを国際化推進センターに改組
教育学研究科(修士課程)学校教育専攻、特別支援教育専攻、教科教育実践専攻、養護教育専攻及び障害児教育専攻を、教育学研究科(修士課程)学校教育実践専攻、教科教育実践専攻に改組／発生病学研究センターを発生病学研究所に改組／文学部附属永青文庫研究センター設置／**設立60周年**



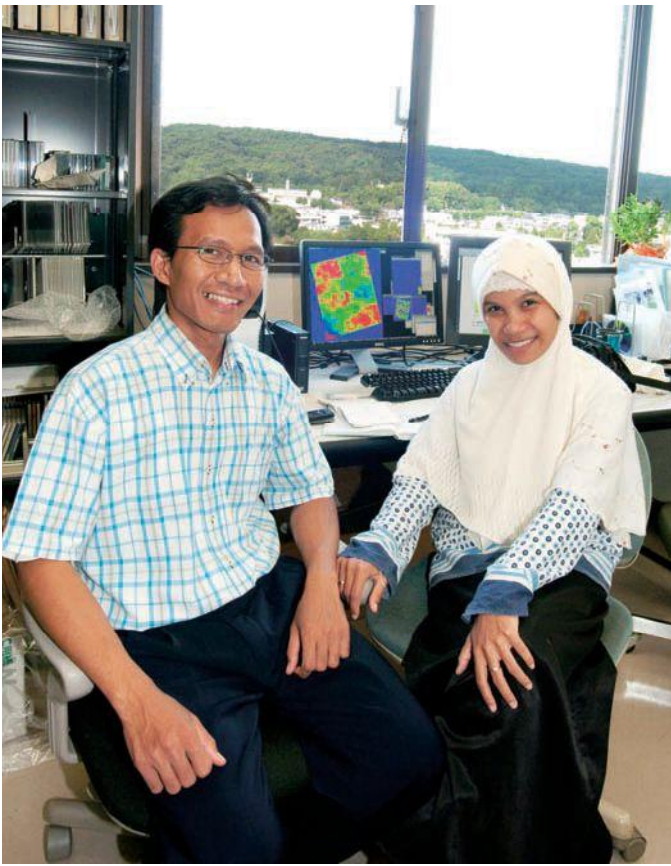
インタビュー

大学院自然科学研究科

アセプ・サエプロさん バユ・アラムサリさん

異国へ留学し、結婚、出産 いつか母国で教鞭を

アメリカや中国をはじめ、世界の大学では学生結婚が多く、赤ちゃんを抱いた学生が構内を歩く姿も珍しくありません。熊本大学に通う留学生の中にも、学生結婚を果たしたカップルがいます。今回は、故郷から遠く離れて研究と子育てに励むアセプさん、バユさんに、お話をうかがいました。



研究と子育ては比べようのない大切なもの。バユさんが学会のときにアリファちゃんが熟を出したときには、アセプさんが研究を休んで育児に専念するなど、互いにサポートし合い、夢に向かって進んでいる

夫婦そろって学位取得を目指す

アセプさん（29歳）と妻のバユさん（28歳）の母国はインドネシア。2005年、一足先にアセプさんが日本政府の国費外国人留学生として招かれて来熊。大学院自然科学研究科で、複合新領域科学専攻生命環境科学講座の学生として、研究に没頭する日々が始まりました。

熊本大学留学生センターで一年ほど日本語の勉強をするまでは、全く日本語が話せなかったというアセプさんですが、「来日当初は日本の寒さにびっくりしました」と、今では流暢な日本語でその印象を話します。

「熊本はとても美しいところですね。火山が多く、私の故郷によく似ています。研究室が9階にあるので、いつも熊本城や阿蘇の山並みを眺めながら、インドネシアにはない四季を楽しんでいます」。

アセプさんは火山の研究を行っており、これまで集められた膨大な蓄積データと格闘する毎日。データを元に火山の歴史

や仕組みなどを調べています。研究室で忙しく過ごすアセプさんには、故郷に大切な人がいました。

バユさんはそのころ、インドネシアの大学院に在学中。「当時はただの友だちで、遠距離交際が1年ほど続きましたが、ある日突然プロポーズを受けて、びっくりしました！」。

2007年、修士課程を修了したバユさんが来熊し、異国で結婚生活がスタートしました。熱工学の研究をしていたバユさんに、工学部の鳥居修一教授から声が掛かり、博士課程を受験して見事合格。以来、鉄の精錬を理論的に解析してその最適条件の研究を行っています。

夫婦そろってそれぞれの研究室へ通い始めたころ、バユさんのお腹には赤ちゃんが宿っていたのです。

開かれた大学が支えた育児

2008年6月、研究室には臨月を迎えたバユさんの姿がありました。出産の2日前まで研究を続け、無事に長女のアリファちゃんを出産。そして3カ月後には研究に復帰しました。

「周囲には家族もないのがとても不安でした。研究室に行こうにも保育園には空きがなくて預ける先もないし、日本にはベビーシッターがいません。誰にも相談できず本当に心細かった」。それで

International exchange Report

国際交流レポート／平成21年6月～21年8月

6月12日 / 在福岡米国総領事館主任領事来学 (写真1)



写真1

22日 / 在日南アフリカ共和国大使館セシル・マンカ公使来学



写真2

7月1日 / タイ・コンケン大学 Dr. Sopit Wongkhan, Dr. Chaisiri Wongkham 来学 (写真2)

10日 / 在日サウジアラビア王国大使館・文化庁文化アタッシェEsssam Bukhary氏来学 (写真3)



写真3

16日 / 「環黄海産学官連携学長フォーラム」参加(中国煙台市)／日・中・韓38大学・機関の学長および関係者約102名が集まり産学官協力・交流について活発な意見交換が行われました。本学からは谷口学長が参加。フォーラムでは「科学技術イノベーションおよび研究成果の産業化」、「国際教育・研究の交流と協力」、「環黄海地域での産学官連携促進プラン」の3セッションが開かれました

27日 / 熊本大学サマープログラム2009を実施(8月7日まで)／中国及び韓国の大学生21名が参加し、日本語クラス、日本事情に関する講義を受講しました。またプログラムの一環として市庁舎訪問、茶道体験、ホームビジット(日本の生活体験)などを行いました。8月4日には蒲島熊本県知事を表敬訪問しました



29日 / 「みなまた環境マイスター養成プログラム」第7回イブニングセミナーをみなまた環境テクノセンターにて開催／カナダ・オンタリオ州環境省所属のザファバティ博士が「五大湖の水環境についての紹介」(Introduction to Great Lakes and their Environmental State)というテーマで講演を行い、本学古川憲治教授も講師を務めました。みなまた環境マイスター養成プログラム受講生、一般企業からの参加者、水俣市民ら計27名が参加しました



8月1日 / 台湾・南榮技術学院学長来学(国際交流研究集会)

3日 / 法学部GP国際シンポジウム「Democracy based on Community and Civic Participation-コミュニティに基づく民主主義と市民参加」を熊本大学にて開催／米国・テキサス大学准教授 Rodolfo Rosales による講演などが行われ20名が参加しました。米国(サンアントニオ市)のコミュニティ形成と市民活動に関する講演を中心として、日本、フランスのコミュニティ活動などの比較検討を行いました

7日 / 短期留学コース閉会式

9日 / カナダ・アルバータ大学英語・文化研修セミナーに参加(9月5日まで)／8月9日から9月5日にかけて、カナダのエドモントン市にあるアルバータ大学において、14名の熊本大学学生が英語・文化研修セミナーに参加しました。午前中は授業、午後から文化研修として様々なエクスカーションが行われ、充実した4週間を過ごしました



11日 / 大学院GP「IT時代の教育イノベーション育成プログラム」熊本大学国際セミナーを東京にて開催／英国・リバプール大学前学長 Drummond Bone 氏による、国際産学連携に基づくeラーニング戦略に関する講演が東京のキャンパス・イノベーションセンターにて開催され、学内外から43名(学内18名／学外25名)が参加しました

22日 / 韓国・江南大学一行来学(国際合同セミナー)

も毎日2時間だけでもと、研究室に向かい続けたバユさん。アセブさんも交代で、研究室と自宅を何度も往復して育児に取り組みました。

「ラッキーだったことは、二人の担当教授である小池克明先生と鳥居先生がとでも理解してくれたこと。状況に応じてレポートの提出期限を調整してください。夫、夫婦交代で子どもの世話ができるように休みをもらったりと、周囲の皆で私たちを支えてくれました」。

アリファちゃんは今、1歳2カ月。「心配なのが言葉。親はインドネシア語で保育園は日本語。理解できるのかわ

て思うときがあります」と語るバユさん。アリファちゃんが初めて話した言葉は「ありがとう」。親の心配をよそにアリファちゃんはすでに立派なバイリンガルぶりを発揮しています。保育園の先生がかわいがってくださり、預けていても安心して研究に没頭できると、二人とも頼りにしています。

教授に、仲間に、大学に感謝

アセブさんが学位を取得できるのは、最短で来年10月の見込み。遅れて入学したバユさんの博士課程修了予定は2011年3月ですが、夫と一緒に帰国できた



休日には食料の買い出しや調理などに忙しいというバユさん。構内で一番好きな場所はレストランで、お気に入りメニューは、魚フライと天ぷらうどんとか

らと、2年半で学位を取得するため奮闘中です。帰国したら、大学の教員として教鞭をとるのが二人の夢。熊本大学で

培った研究の成果を、母国で多くの人々に伝えることが目標です。

誰一人知る人のいない異国に留学することさえ大変な覚悟を要する上に、結婚・出産と人生の大切な節目を熊本で迎えたアセブさんとバユさん。

「子連れで研究室に通ってもいいよ」と応援してくれた先生たち、研究室の仲間に感謝しています。皆に支えてもらったからこそ、子育てをしながら研究ができるんです」と、支えてくれた周囲への感謝を忘れることはありません。

卒業生ジャーナル

Graduates' Journal

本学の卒業生たちの“今”に迫る「卒業生ジャーナル」。
熊本県内はもとより、全国で活躍する先輩たちの
これまでの歩みや苦勞、そして喜び、楽しみなどを通して
精勵するその姿をご紹介します。



田中 英一郎 Eiichirou Tanaka

医療法人社団 健成会 ひとよし内科（熊本） 院長
医学部・平成8年度卒



在学中は、医学部の基礎研究室に足を運ぶ傍ら、全学の書道部（森山秀吉先生）に所属し篆刻をしていました。医学部キャンパスでは、「本九祭」立ち上げに熱中したこともありました。篆刻刀を握っていましたが、九州大学時代にP450研究（大村恒雄先生）の教室にいたこともあり、臨床ではメスを握らない内科（第二内科・満屋裕明先生）に入局。その後、地域医療の研鑽中に山田和彦先生と出会い、人吉市で診療所を任されました。先進医療ネットワークが徐々に構築されつつも、住民の方々とのふれあいを日々大切に、今も汗をかきながら走り続けています。



児玉 芳和 Yoshikazu Kodama

京セラ株式会社（鹿児島） 勤務
工学部知能生産システム工学科・平成15年度卒／大学院自然科学研究科材料システム専攻・平成17年度修了



現在私は、自動車のエンジン部品などを削るための道具である、切削工具の開発業務に携わっています。一般にはあまりなじみがないと思いますが、マーケットは大きく、また学術的にも非常に奥が深い分野です。

企業と大学とで大きく異なるのは、“時間”が限られていることだと思います。決められた期間の中で目標性能を達成し、お客様に喜ばれる製品を作らなければなりません。日々忙しいですが、やりがいがあります。学生時代はあっという間です。何もせずに後悔するより、何事にもトライしてみてください。きっとためになると思います。



三好 栄太郎 Eitaro Miyoshi

熊本市教育委員会事務局 文化財課 勤務
大学院文学研究科歴史学専攻考古学分野・平成19年度修了



在学中は考古学を専攻しており、研究室の中心となって、天草の古墳の調査を行ったりもしました。現在は熊本市教育委員会文化財課で、文化財の保存と活用に取り組んでいます。

文化財には美術的、技術的、そして歴史的など多くの価値があると思います。市民の方がこのような価値に触れ、様々な感心し、驚かれるときにはやはり嬉しくなります。炎天下の現場はとても過酷ですが、出土するものから昔の人の生活に迫る作業は、それ以上にやり応えがあります。大学時代のいろんな経験に感謝しそれを糧にしながら、これからも頑張っていきたいと思っています。



田中 浩司 Kohji Tanaka



山口地方裁判所 勤務
法学部法学科民法専攻・平成16年度卒／大学院法学研究科民法専攻・平成18年度修了

在学中から裁判所事務官を目指しており、平成19年に山口家庭裁判所に採用されました。採用後は、家庭内の紛争を解決する家事係などで裁判手続を経験し、現在は、山口地方裁判所会計課において、物品の調達や管理を担当する係に配置され、裁判を物的側面から支える業務に携わっています。

裁判所事務官の魅力は、このように事件に直接携わる場面と、それを側面から支える場面に関わることができる点にあると考えています。裁判員制度も始まり社会が裁判所に注目をしている中、裁判所で働いていることに責任とやりがいを感じています。



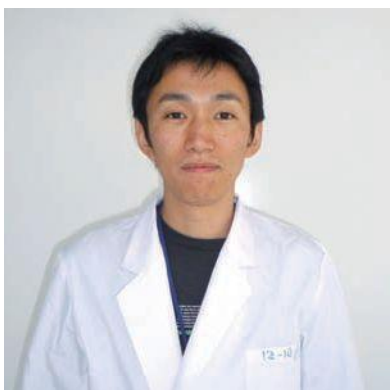
深水 俊哉 Syunya Fukami



熊本市教育委員会事務局 学校教育部学務課 勤務
教育学部小学校教員養成課程・平成12年度卒／大学院文学研究科人間科学専攻・平成14年度修了

学部・大学院では、江戸時代の思想家である安藤昌益の研究をしました。この人物は社会のあり方、人のあり方について深く考えており、私も研究を進めるうちに、人が楽しく生きていく社会を作っていきたいと考え始め、それが現在の職に就くひとつの動機となりました。

市役所入庁後は、福祉関係の職場や東京出向を経て、現在の職場に勤務しています。教育委員会事務局の職員ですので、子どもたちとは間接的にしか関わることはできませんが、子どもたちが楽しく過ごしていけるよう様々な施策に取り組んでいます。



小森 高文 Takafumi Komori



エーザイ株式会社 筑波研究所（茨城） 勤務
薬学部薬科学科・平成6年度卒／大学院薬学研究科医療薬科学専攻・平成11年度修了

大学3年生までは遊び中心、志の低い怠け者で、決して褒められた若者ではありませんでした。遅まきながら人生観が変わったのは、無限な魅力と可能性を持った研究との出会い。恩師や同士にも恵まれ、いまや製薬企業で一端の研究者として、グローバルの垣根を越え奮闘中。最近、組織運営、企画推進、人材育成も意識しながら研究活動を展開し、“患者さまのベネフィット向上に繋がるクスリを創る”という単純明快なゴール実現に邁進しています。今日という日は二度とありません。よく考え、よく悩み、Let's take action! 人生は太く長く楽しく。



竹下 勝明 Katsuaki Takeshita



熊本県立済々黌高等学校 勤務
理学部数学科・平成9年度卒／大学院自然科学研究科数理科学・情報システム専攻・平成11年度修了

職場では1年生の担任をし、数学IとAを教えています。大学で学んだことを生かせる場と考えて、この職業に就きました。大学時代は目の前にある数学に対して、一体、何の為に学ぶのだろうか?とよく考えていました。理学部での研究は、自分の近い将来に何か影響を与えるものではないと思います。しかし、基礎学問として脈々と受け継がれ、その裾野を広げることが、日本の為に大切なのだと思い始めました。この気持ちを少しでも理解して、その分野を選択してくれる生徒が増えることを願いつつ、日々の仕事に邁進しています

教育学部美術教育・松永拓己准教授と壁画制作参加学生が 熊本市長より感謝状受領



8月27日、熊本大学教育学部美術教育・松永拓己准教授と松永研究室に、幸山政史熊本市長より感謝状が贈られました。これは、同研究室と有志が取り組んできた旧産業文化会館の外周巨大壁画に対するものです。

贈呈式には、松永准教授と壁画制作に参加した学生のうち11人が出席。幸山政史市長は、感謝状と記念品を手渡した後、「若い力が熊本を支えていることに心強く、また嬉しく感じます」と、謝辞を述べられました。

今年5月から8月上旬にかけて、3回の制作活動で延べ156名の学生の参加によって完成した巨大壁画。建物の外周約90メートルに、熊本城や阿蘇などの観光名所や宮本武蔵、夏目漱石などゆかりのある人物のほか、牛深ハイヤ、山鹿灯籠まつりなど、熊本名物が大胆に描かれています。油絵の技法やガラス絵の技法を用いた色鮮やかなこの壁画は、来年の秋ごろまで熊本市の街に華をそえることとなります。

「熊大からくりサークル」が、「ETロボコン2009」 九州地区大会・NXTグループ・競技部門1位などを受賞!



「熊大からくりサークル」が、社団法人組込みシステム技術者協会が主催する「ETソフトウェアデザインロボットコンテスト(ETロボコン)2009」の九州地区大会において、競技部門とモデル部門で素晴らしい成果を出したとして、次の3つの賞を受賞。表彰式は九州地区大会2日目の9月6日(日)に行われました。「ETロボコン」は、自動車や家電など日本の産業を支えている“組込みソフトウェア分野”における、技術教育がテーマのイベントです。

NXTグループ・競技部門1位

NXTグループ・総合4位

NXTグループ・モデル部門・学生ベスト開発環境賞

同サークルは、11月18日(水)からパシフィック横浜で行われる「ETロボコン2009」チャンピオンシップ大会に出場する予定です。なお同サークルは、昨年の「ETロボコン2008」九州地区大会においても、競技部門3位、モデル部門学生ベスト性能追求賞を受賞しています。

職員ソフトボール部の壮年チーム「熊本大学倶楽部」が、 「第24回全日本壮年ソフトボール大会」で3位になりました。



熊本大学の職員を中心に構成する、ソフトボール部の壮年チーム「熊本大学倶楽部」が、9月4日(金)～6日(日)まで青森県で開催された「第24回全日本壮年ソフトボール大会」に、熊本県代表として出場しました。本大会出場は3年連続3回目です。

初戦では埼玉県代表の「SC秩父」を7対0、続く2回戦でも広島県代表の「エフスリー」を5対1、3回戦では兵庫県代表の「北口クラブ」を7対0、準々決勝では愛知県代表の「スーパースターズ豊田」を7対3で下し、初のベスト4に勝ち上がりました。

その後の準決勝では、過去6回の優勝を誇る強豪の徳島県代表「鳴門クラブ」と対戦。残念ながら1対8で敗れ決勝進出を逃しましたが、目標であったベスト8を超える成績を残しました。

「熊粹祭」 Youth in Sight ー可能性ー



7つの学部と4つのキャンパスからなる熊本大学の、全体的な大学祭である「熊粹祭」。全ての企画、運営、準備が学生の手で行なわれています。開催期間中のキャンパス内には、60を超えるテント(模擬店)が立ち並び、朝から夜までバンド演奏やパフォーマンスステージが繰り広げられ、国の重要文化財である五高記念館のライトアップや最終日の打ち上げ花火など、例年さまざまな催しが来場者の方に好評を博しています。

日 時／11月1日(日)～3日(火・祝)
場 所／黒髪北キャンパス

【問い合わせ】
熊粹祭実行委員会
Tel. 096-342-2182
E-mail: fes@yuusui.net

「本九祭」 ー医新ー



熊本大学医学部の大学祭である「本九祭」の名称は、キャンパスのある本荘・九品寺地区の頭文字に由来しています。地域社会との交流を図る趣旨の医学展に、エンターテインメント性を加えた内容となっており、国立感染症研究所エイズ研究センター長の山本直樹先生による講演や、サンブラザ中野氏と井上正康先生による対談「生命のスーパーシステムと医食同源」などが予定されています。

日 時／10月31日(土)・11月1日(日)
場 所／本荘・九品寺キャンパス

【問い合わせ】
本九祭実行委員会
E-mail: shimashu1234@yahoo.co.jp

「薬学展」 ー煌一

熊本大学薬学部の学園祭「薬学展」は、タマネギのDNA抽出実験、薬膳料理販売、薬剤師体験(高校生対象)、薬草園ツアー、薬学部に関する展示発表などが行われます。

日 時／11月3日(火・祝)
場 所／大江キャンパス

【問い合わせ】
薬学展実行委員会
E-mail: 075p1055@st.kumamoto-u.ac.jp

本九祭2009「発生医学研究所共同企画」



【展示企画】見て触れてわかる「発生医学」
【講演企画】聴いてわかる「発生医学」

日 時／10月31日(土)・11月1日(日)
11:00～17:00
講演は11月1日(日)10:30～11:45
場 所／発生医学研究所
1Fカンファレンス室
対 象／一般
※事前申込不要・参加費不要

生きた実験動物や発生標本の展示、幹細胞(ES細胞、iPS細胞)も観察できます。山田教授による講演「男と女のからだの違い」を行ないます。

【問い合わせ】
発生医学研究所
Tel.096-373-5786
E-mail: imeg@kumamoto-u.ac.jp

熊本大学設立60周年記念式典・記念講演会

熊本大学は1949年(昭和24年)新制国立大学として発足し、今年で60周年を迎えます。その記念事業として、以下のとおり「熊本大学設立60周年記念式典・記念講演会」を開催します。

日 時／11月2日(月)
10:00～11:30 記念式典 (開場 9:30)
14:00～17:00 記念講演会(開場 13:30)
場 所／熊本県立劇場 コンサートホール

申込み方法 ◎申込み締切日:平成21年10月16日(金)必着
※応募者多数の場合は抽選となります。

【ハガキの場合】

ハガキに「60周年入場希望」、住所、氏名、年齢、電話番号を明記の上、下記住所までお送り下さい。

〒860-8555 熊本市黒髪2丁目39-1
熊本大学総務部総務課 行

【Eメールの場合】

電子メールの件名に「60周年入場希望」、
本文に住所、氏名、年齢、電話番号を記入の上、下記
のアドレスへお送り下さい。

E-mail:sos-somu@jimu.kumamoto-u.ac.jp

※お預かりしました個人情報は、熊本大学創立60周年記念式典・講演会
以外の目的には使用いたしません。



演 題:「可能性への挑戦」
講演者紹介:細川 佳代子氏

ファーストレディーとして活躍。1994年に
スペシャルオリンピックス日本を設立し、
現在名誉会長。国内外で積極的なボラン
ティア活動を行っている。
夫は、元内閣総理大臣の細川護熙氏。



演 題:「心と脳」
講演者紹介:茂木 健一郎氏

「クオリア (qualia)」という概念を鍵として、心
と脳の問題を探求している。執筆活動、テレビ
出演、講演活動など、分野を超えて活躍中。

第4回熊本大学ホームカミングデー

大学の近況に触れ、懐かしい学友や恩師との再会と交流・
親睦を深めていただくために、大学が卒業生をお招きする
ものです。

日 時／11月1日(日)
12:00 ～ 受付開始
13:00 ～ 歓迎の辞
13:10 ～ 大学の近況報告

14:00 ～ 講演会1部
演 題:「世界に羽ばたKUMADAI
マグネシウム合金」
河村 能人(自然科学研究科・教授)

14:45 ～ 講演会2部
演題:「永青文庫資料から見る物語史」
森 正人(社会文化科学研究科・教授)

15:30 ～ キャンパスツアー
17:00 ～ ホームカミングデー・パーティー



設立60周年記念展覧会 大学サイエンスフェスタ 「極限を制御せよ!」

本学の特色ある先端研究の一つである、
「衝撃エネルギー工学グローバル先端拠点
(G-COEプログラム)」および、「次世代耐熱
マグネシウム合金(KUMADAI Mg)の基盤
技術開発(JST地域結集型研究開発プログ
ラム)」を中心に、研究内容や成果について、
実物や映像、参加体験型展示等を織り交ぜ
て、分かりやすく紹介します。

日 時／11月20日(金)～29日(日)
11月24日は休館になります
場 所／国立科学博物館(東京)

熊本大学設立60周年記念 特別講演会

演 題:「転機を迎えた薬学研究と教育—
これからの薬学生に期待する」
講 師:松木 則夫(東京大学大学院薬学系
研究科・教授/日本薬学会会頭)
日 時/10月27日(火)15:00~16:30
場 所/大江総合研究棟2F 多目的ホール
対 象/薬学生・薬学関係者・一般
※事前申込不要・参加費不要
※なお、特別講演終了後引き続き、松木則夫
先生によるセミナーも開催いたします。

演 題:「近代医学のあけぼの」
講 師:小川 道雄(市立貝塚病院・総長
/元熊本大学・副学長)
日 時/11月10日(火)15:00~16:30
場 所/大江総合研究棟2F 多目的ホール
対 象/薬学生・薬学関係者・一般
※事前申込不要・参加費不要

【問い合わせ】
薬学部長 高濱和夫
Tel.096-371-4105 Fax.096-371-4639
E-mail:sky-somu@jimu.kumamoto-u.ac.jp

ラファディオ・ハーン漂泊の軌跡 —ヨーロッパからアメリカまで—

今年にはハーンがアメリカに渡って、140年
目の年にあたります。また、ゆかりの深い熊
本大学は設立60周年を迎えます。この記念
の年に、ハーンのヨーロッパ時代やアメリカ
時代を検証する、講演およびシンポジウムを
開催します。

日 時/11月7日(土)14:00~17:00
場 所/くすの木会館 レセプションルーム
(熊本大学内)
対 象/一般市民・学生・教員・研究者
※事前申込不要・参加費不要

【問い合わせ】
附属図書館総務担当
Tel.096-342-2212



熊本大学設立60周年 法学部シンポジウム

「今、求められるまちづくりとは—住民参
加と自治」というテーマで、シンポジウムを
開催。
滋賀大学前学長の宮本憲一氏から、「市町村
合併後のまちづくり」について、熊本市長の
幸山政史氏から、「熊本市のこれからの住民
参加」について講演があります。

日 時/11月1日(日)13:00~16:00
場 所/法学部A1教室
対 象/一般
※事前申込不要・参加費不要

【問い合わせ】
法学部GP推進事務局シンポジウム事務担当
Tel.096-342-2315



熊本大学設立60周年/横井小楠 生誕200年・没後140年記念 第26回熊本大学附属図書館貴重 資料展"新しい横井小楠像の構築 を目指して"

熊本の生んだ偉人、横井小楠に関する最
新の研究成果を広く一般に知っていただ
くため、横井家や永青文庫から寄託されて
いる史資料を展示公開し、三澤純文学部准
教授による特別講演会を開催します。また、北
野隆特任教授による第4回永青文庫セミ
ナーも同時に開催します。

日 時/10月31日(土)~11月2日(月)
場 所/附属図書館 自由閲覧室
対 象/一般・学生・教員・研究者
※事前申込不要・参加費不要

【問い合わせ】
附属図書館サービス担当
Tel.096-342-2273
<http://www.lib.kumamoto-u.ac.jp/shonan/>



熊本大学公開講演会「知のフロンティア」

入場無料

熊本大学が世界に誇る3つの最先端研究を、それぞれの第一人者が分かりやすくお話しします。

第1弾 10月18日(日)

「雷さまの華麗なる技 ～環境を浄化し、
ガン治療をめざすパルスパワー～」

秋山 秀典(大学院自然科学研究科・教授)



第2弾 11月29日(日)

「60兆の細胞が織りなす造形美
～ヒトのからだの不思議～」

小椋 光(発生医学研究所所長・教授)



第3弾 12月6日(日)

「気が付いたら感染していた、では遅すぎる……
～忍び寄るエイズとどう戦うか～」

満屋 裕明(大学院医学薬学研究部・教授)



■各講演会共通

時 間／開場 13:00 開演 13:30 終了予定 15:30

場 所／工学部百周年記念館

対 象／一般市民

※事前申込必要(ただし当日参加も可能)

放送日時
決定!

テレビ放送公開講座「見て聞いて驚く!熊大お宝発見伝」

本学には、まだまだ皆さんに知られていない、貴重な資料・建造物・施設・知的財産など、たくさんのお宝が眠っています。そんな宝ものを5回にわけて紹介します。

■ 放送日時 TKUテレビ熊本にて放送

第1回 11月14日(土)

「細川家伝来の古地図を手がかりに現地をゆく」
稲葉 悠陽(文学部附属永青文庫研究センター・教授)

第2回 11月21日(土)

「日細川藩由来の薬用植物園へ行こう」
矢原 正治(薬学教育部附属薬用植物園・園長)

第3回 11月28日(土)

「機械遺産認定!よみがえったモノづくり機械たち」
安井 平司(大学院自然科学研究科・名誉教授)

第4回 12月5日(土)

「探索 五高の赤煉瓦」
伊藤 重剛(五高記念館・館長)

第5回 12月12日(土)

「夢の新素材!世界が注目するKUMADAI合金」
河村 能人(大学院自然科学研究科・教授)

【時間】

放送時間は各国とも 16:55～17:25 の予定
※再放送は次週木曜日の14:35～15:05
※タイトルは変更になる可能性があります。

【問い合わせ】 研究・国際部社会連携課公開講座担当 Tel.096-342-3121 <http://www.cps.kumamoto-u.ac.jp/>

政創研5周年記念フォーラム 「21世紀型社会の構想」

元東京大学総長であり、学習院大学教授の佐々木毅氏を迎えて記念講演会を開催。

日 時／12月12日(土)13:00～

場 所／工学部百周年記念館

対 象／一般

※事前申込不要・参加費不要

【問い合わせ】

政策創造研究教育センター

Tel.096-342-2044 Fax.096-342-2042

学生による政策コンペ

現代社会が直面する地域問題解決のために、事前公募した県内学生・大学院生がコンペ形式で「持続可能な地域社会の形成」を目指した、政策提言のプレゼンテーションを行います。

日 時／11月1日(日)13:00～

場 所／五高記念館化学実験場階段教室

対 象／県内大学生・大学院生・教職員・行政職員および興味のある一般の方

※事前申込不要・参加費不要

【問い合わせ】

政策創造研究教育センター

Tel.096-342-2044 Fax.096-342-2042

RIST設立20周年記念 シンポジウム

「くまもと技術革新・融合研究会(RIST)」は、創立20周年記念シンポジウム開催。基調講演に、ノーベル賞受賞者である白川英樹先生をお招きします。

日 時／10月21日(水)13:00～17:00

場 所／熊本テルサ テルサホール

対 象／RIST会員および一般

※事前申込必要・参加費不要

【問い合わせ】

RIST事務局 木原

Tel.096-286-3300

Fax.096-286-3929

E-mail:rist@kmt-ti.or.jp

UNESCO-Kumamoto University Bioethics Roundtable

英語による生命倫理国際セミナーで、総合テーマは「医療の本質」です。

日時／12月12日(土)・13日(日)
場所／くすの木会館レセプションルーム
対象／生命倫理に関心がありある程度英語力のある方
※事前申込必要・参加費2,000円(13日の昼食代を含む)

【問い合わせ】
大学院社会文化科学研究科 高橋隆雄
E-mail: jk-taka@kumamoto-u.ac.jp

夢科学探検2009



「夢科学探検2009」は小学生から一般の方を対象に、体験型のイベントのほか、学生作品展示等も行われるイベント。来て、見て、触れて、科学を楽しんでいただくための、さまざまな企画が準備されています。

日時／11月3日(火)10:00~16:00
場所／黒髪南地区キャンパス
対象／小中高大学生・一般
※事前申込不要・参加費不要

【問い合わせ】
(理学系) 松田 Tel.096-342-3424
(工学系) 奥野 Tel.096-342-3635

熊本大学基金へのご協力に感謝し、心より御礼申し上げます。

No.7(平成21年6月1日~8月31日)

卒業生、在学生の保護者、名誉教授の方々をはじめとした皆様から、平成21年8月31日現在で、総額約2億4,420万円のご寄附をいただきました。皆様のご協力に厚く御礼申し上げます。
今号では、平成21年6月1日から8月31日までの間にご入金を確認させていただきました個人149名、7法人・団体等のご寄附者すべての皆様へ感謝の意を込め、ここにご芳名を掲載させていただきます。公開

をご希望されないご寄附者につきましては、掲載しておりません。
また、ご寄附者で万が一お名前がもれている場合につきましては、誠に恐縮ではございますが、募金推進室(電話:096-342-2029)までご連絡ください。
なお、第1期の募集目標額を10億円としております。皆様の更なるご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

1. お名前・寄附金額の掲載を希望されたご寄附者

(寄附金額別、五十音順・敬称略にて掲載させていただきます。) ※()内の数字は、累計寄附金額(万円)です。

- | | |
|-------------------------------|--|
| 【302万円】 桑野 幸徳 | 【5万円】 上田 勝 梶修一郎 菊池 章 菅野 幸裕(20) 千葉 昂 |
| 【50万円】 小宮 智
東京エレクトロン九州株式会社 | 医療法人朝日ヶ丘クリニック |
| 【35万円】 石原 修 | 【5万円未満】 古後 隆史 佐伯 優子 神宮 政男 高宗 俊雄 西村 紘一郎 |
| 【25万円】 平田 順治 | 船越 洋太郎 古本 幸也 本田 孝 |
| 【20万円】 田口 宏昭(25) | |
| 【10万円】 鳥居 修一(20) 梶島 武雄(20) | |

2. お名前のみ掲載を希望されたご寄附者

(五十音順・敬称略にて掲載させていただきます。) ※[]内の数字は、累計寄附回数(回目)です。

- | | | | | | | | |
|---------------|-------------|----------|----------|---------------|----------|----------|-----------|
| 青木 太器一 | 秋山 泰廣 | 浅山 滉 | 石谷 幸江 | 伊地知 紀子 | 井上 吉弘 | 上田 博是[2] | 宇佐美しおり[4] |
| 内田 乾爾 | 内田 豪峰 | 有働 功 | 江見 高章[2] | 江良 沢実[2] | 大磯 秀明[2] | 大磯 正剛[2] | 大森 昭子 |
| 岡崎 幹雄[2] | 緒方 雅彦 | 緒方 優紀[2] | 緒方 義也 | 古賀 久恵 | 小中 和一[2] | 小村 芳之[2] | 佐土原 浩[2] |
| 佐野 真美 | 鮫島 靖浩 | 重浦 睦治 | 柴山 佳夫[2] | 杉井 章二 | 鈴木 妙子 | 鈴木 幹夫 | 銭坪 経 |
| 芹川とし子 | 平 哲雄 | 高橋 エイ | 武富 亨 | 辻 元 | 寺本 仁郎 | 戸梶 元斎 | 中西 良一[3] |
| 長野 久雄 | 中村 静代 | 西田 稔伸[2] | 納富 勝彦[2] | 野村 耕一 | 萩尾 武彦 | 濱岡 重則 | 濱村 吉三郎 |
| 東 哲治[2] | 平田 智美[2] | 藤崎 文子 | 船津 良夫[2] | 本庄 敏夫 | 松本 芳彬[2] | 樫木 輝美 | 森山 茂 |
| 諸井 三幸 | 柳田 敏孝 | 山下 尚登 | 山田 龍也 | 吉村 順次 | 渡辺 忍 | | |
| 医療法人山仁会山口整形外科 | 医療法人仁寿会中村医院 | | | 医療法人社団弘象会東和病院 | | | |

3. お名前・寄附金額の掲載を希望されないご寄附者

個人67名、2法人・団体等

漱石が夢見た教育を 熊本から世界へ。

「教育は建国の基礎にして、 師弟の和熟は育英の大本たり」

明治30年、本学の前身、五高の教壇に立っていた30歳の夏目漱石が、五高開校10周年記念式典で述べた祝辞の一節です。文豪・漱石の熱い教育への思いは、そのまま五高・熊本大学の思いであり、脈々と受け継がれた伝統です。

※夏目漱石肖像写真は、財団法人日本近代文学館提供

60 熊本大学は設立60周年を迎えました。

昭和24年の学制改革により当時の熊本における高等教育機関(第五高等学校・熊本医科大学等)を母体とし新制大学として発足、満60年を迎えました。

設立60周年記念事業

国際学長フォーラム

— 第7回 熊本大学フォーラム —

10月31日(土) 午前9時から

会場 工学部百周年記念館

テーマ 「高等教育のグローバル化と国際的教育連携の方向性と課題について」

●学長会議 ●記念講演会

第4回 ホームカミングデー

11月1日(日) 午後1時から

会場 工学部百周年記念館

大学の近況に触れ、懐かしい学友や恩師との再会と交流・親睦を深めていただくために、本学が卒業生の皆さまをお招きするものです。

記念式典・記念講演会

11月2日(月) 《式典》 午前10時から (午前9時30分開場)

《講演会》 午後2時から (午後1時30分開場)

会場 熊本県立劇場コンサートホール



演題

「可能性への挑戦」

細川 佳代子氏

認定NPO法人
スペシャルオリンピックス
日本名誉会長。
『花も花なれ、人も人なれ。』
を2009年に出版。



演題

「心と脳」

茂木 健一郎氏

ソニーコンピュータサイエンス
研究所シニアリサーチャー。
執筆、テレビ出演、講演など
さまざまな分野を超えて活動。

大学サイエンスフェスタ

11月20日(金)～29日(日)

※11月24日(火)は休館

会場 国立科学博物館
(東京:上野)



ハリスパワールによる水中プラズマ

「極限を制御せよ!」

～衝撃エネルギー科学と熊本マグネシウムが拓く未来～
「極限」に挑む熊本大学の先端研究を一挙公開!国立科学博物館と10大学が共催し、「大学サイエンスフェスタ」として展覧会を大々的に開催します。

第2回 東京連合同窓会

11月29日(日) 午前11時～午後2時

会場 東京:上野精養軒「桜の間」

※諸般の事情によりスケジュール等が変更される場合もあります。